

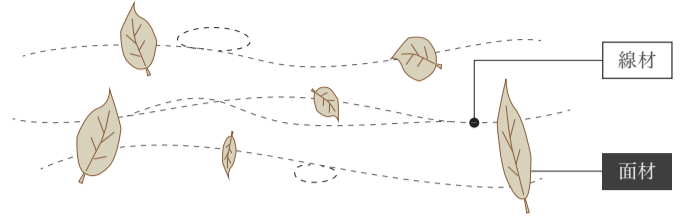
# 舞葉庵 Buyo-An

木枯らし、木の葉舞う中での茶室



## image

木枯らしで舞い落ちる木の葉の中で、茶の一時を愉しむ茶室である。目には映らない「木枯らし」と、舞う「木の葉」の情景を、それぞれ「線材・面材」と読み替え、建築的な空間として表現する。



## diagram

### ■「引っ掛け」構法

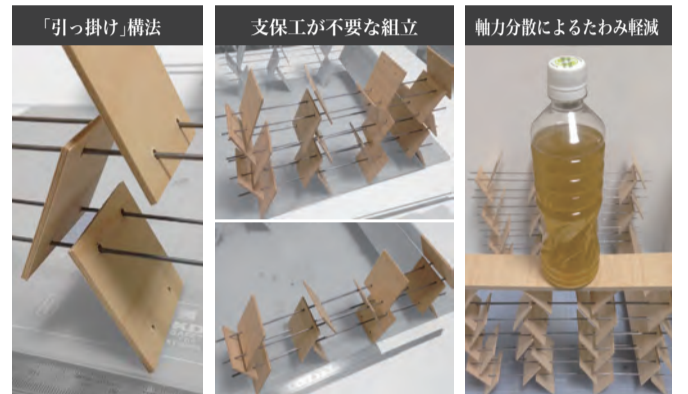
線材と面材の互いが噛み合う様に寄り添いながら、自重と摩擦力で自立する構法とする。

### ■支保工が不要な組立

下段から積み上げる様に組立てていくが、各段階で自立するために支保工や、支える人間は不要である。材料費、人件費、工期を考慮した施工としている。

### ■軸力分散によるたわみ軽減

鉄線にかかる曲げ力を分散させ、極端なたわみを発生しにくくした。



## materials

規格品から各部材寸法を定め、無駄なく効率的に部材を作成する。また、接合部に必要な部材を最少限に抑え、ローコストな茶室を実現する。

名称	形状イメージ	寸法	数量
シナ積層合板		300×300×20	46
		300×1800×20	9
異形丸鋼		1900×d10	28
その他：クロス(メッシュ)、接着シール、塗装剤			

## studies (1/5 模型)

